

「牧山をワインの里に」想いをつないだ3年間

◀ 岡山の魅力発信 ▶



元牧山地区地域おこし協力隊員：茂木 瑞穂さん



協力隊での活動

きっかけ

農業を学びたいという息子の進学を応援するため、東京から岡山へ移住。住まいと仕事を探す中で牧山地区の地域おこし協力隊に応募し、2023年4月に着任。

協力隊のミッション

活動の柱は、①ぶどう栽培の継承、②牧山クラインガルテンのPR・活用、③地域コミュニティ活動。
「息子は高校1年生、母は協力隊1年生」として、岡山での新生活が始まった。

ぶどうと仲間を育てる

JAのブドウ塾や地元農家から栽培を学ぶ。また、クラインガルテン利用者らとグループを結成し、学んだ技術を勉強会で共有し、将来の地域を担う仲間づくりにつなげた。

協力隊での成果

ブドウマーケット、牧山ツアー、納涼祭、ガルテン煎餅などを地域の人と企画。ぶどう栽培の維持だけでなく、人が集まり、牧山の魅力に触れる機会を増やした。



牧山をワインの里へ

牧山で描く夢

地域の人やクラインガルテン利用者たちが草を刈り、きれいに守られている未利用農地を見て、「ここにぶどう畑が広がれば、牧山がもっと元気になる」と着想。よそから来た自分だからこそ見える可能性を大切に、着任当初から「牧山をワインの里にしたい」と語り続け、少しずつ共感の輪を広げた。

協力隊から現在へ

クラインガルテンを利用していた宮下酒造関係者に「牧山をワインの里にしたい」と思いを伝えていた。その後、同社がワイン用ぶどう栽培地を探し始め、牧山地域が整えていた農地と、3年間ぶどう栽培を学び信頼を築いた茂木さんの存在が結び付いた。2026年4月、宮下酒造ワイン事業部へ入社。現在、ブドウ園の管理に携わっている。



今後の展望

- ◆宮下酒造ワイン事業部の一員として、牧山でワイン用ぶどうの栽培経験を積み、地域とともに新たな産地づくりに取り組む。
- ◆協力隊時代に築いた地域とのつながりや、クラインガルテン利用者のグループとの活動を大切にしながら、ぶどう栽培の技術と担い手を次代へつなぐ。
- ◆「牧山をワインの里にしたい」という想いを形にし、牧山に新たな人の流れと地域の可能性を生み出していく。

令和8年7月30日 現在



元牧山地域おこし協力隊員 茂木瑞穂さん



ぶどう栽培の継承に取り組んだ牧山クラインガルテン